

ごみピット容量について

ごみピット容量は安定的なごみ処理のために、施設規模の5～7日分以上とすることとなっており、下表に示すピット容量の検討結果より、**3,400m³**を設定する。

なお、今後の検討の中で下記の点に留意し、ごみピット容量に問題がないか確認する。

①あらかわクリーンセンターの操炉計画も含めた2施設間の調整

表 ごみピット容量の検討結果（2炉構成の場合）

項目		必要容量	
施設規模		120t/日	
1炉あたりの規模		60t/日	
計画日平均処理量		通常時（災害時以外）：80.2t/日（29,272t/年÷365日） ※29,272t/年：計画目標年度の新施設における年間処理量 災害時：88.2t/日（80.2t×1.1） ※災害廃棄物分：10%とする	
補修整備内容		1炉補修整備時	全炉停止整備時
補修整備期間※ ¹ （停止期間）		30日間 （起動・停止を含まない）	7日間 （起動・停止含む）
ごみピット必要貯留容量	災害時以外	(80.2 - 60) × 30 日 = 606t 606t ÷ 120t/日 = 5.1 日分	80.2 × 7 日 = 561t 560 ÷ 120t/日 = 4.7 日分
	災害時	(88.2 - 60) × 30 日 = 846t 846t ÷ 120t/日 = 7.1 日分	88.2 × 7 日 = 617t 617t ÷ 120t/日 = 5.1 日分
	設定容量	単位体積重量※ ² ：0.25t/m ³ 846t ÷ 0.25 t/m ³ = 3,384m ³ → 3,400m ³ （災害時の1炉補修整備時：最大所要量）	

※1：ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2017年改訂版に記載されているごみピット算定方法に従った。

※2：廃棄物処理施設の発注仕様書作成の手引き（標準発注仕様書及びその解説）エネルギー回収推進施設編
ごみ焼却施設（第2版）ごみピット【解説】に「ごみピット容量算定見かけ比重は基準ごみ時見かけ比重
0.2～0.3t/m³程度が一般的である。」との記載があることから間をとり、0.25t/m³を用いる。

なお、既存施設のごみピット容量は以下のとおりである。

あぶくまクリーンセンター：2,400m³（有効）

あらかわクリーンセンター：4,830m³（1FLまでの高さ）

見かけ比重：0.229t/m³ ⇒ 1,106.07t